

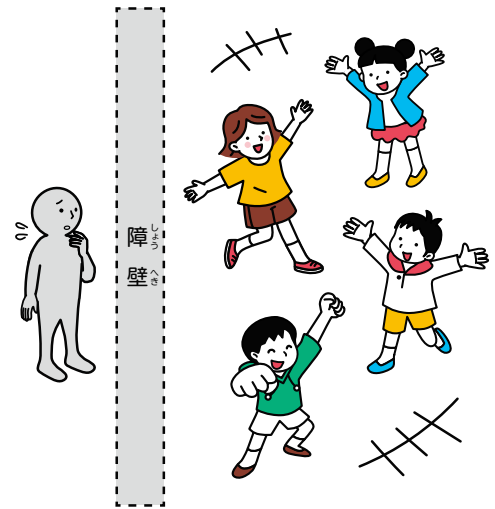
どこに「バリア」はあるのかな？

自分の身の回りを見渡して、「バリア」を考える

「バリア」とは、社会のさまざまな場面で生活の不便さや生きづらさを感じさせる「障壁 (=かべ)」のことを指します。心身に障害のある人や、ケガや病気で体が不自由な人だけでなく、国籍や言語、出身地が異なる人、性別にかかわらず、あらゆる人にとって生じる問題です。

なぜ、バリアは生まれてしまうのでしょうか？ 社会には多様な人がいるにもかかわらず、多数の人々に合わせて社会環境をつくった結果が表れたものだと考えられます。

なかでも、心身に障害がある人の「バリア」を社会全体の問題としてとらえ、社会で取り除くべきだとする考え方を「障害の社会モデル」と言います。こうした考えをもとに、自分の身の回りでも「バリア」はないか、探してみましよう。



身近な「バリア」を考える

一人ひとりの行動や、環境を整えることで、解決できるバリアはたくさんあります。人によって、どんなことでバリアを感じるのかは異なります。あなたにも、他人とは違うと感じること、困っていることはありませんか。まずはまわりの人と2つのポイントを考えてみましょう。

① 身の回りのバリアに気づく

自分はもちろん、いろいろな場面や人を想像し、どんなことがバリアになるのか考えましよう。

② バリアを解消する行動を考える

気づいたバリアを取り除くために、どんなことができるでしょうか。

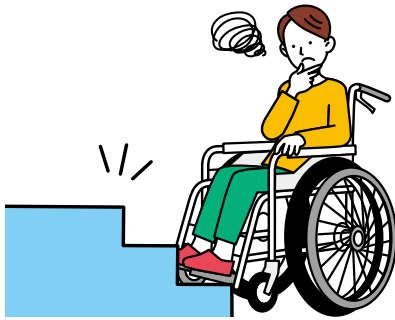
社会にある「4つのバリア」

障害のある人が直面する「バリア」は、大きく4つに分けられます。心身に障害のある人だけでなく、高齢者、妊娠中の女性、小さな子どもを連れている人、海外からの旅行者など、いろいろな人に起こりうる可能性があります。4つのバリアから、どんな場面が想像できるでしょうか。

物理的なバリア

電車やバスなどの公共交通機関、道路、建物などにおいて、利用者に移動の困難をもたらすバリアのことを言います。

建物の出入口に階段しかないと、車いす使用者にとっては、建物に入るのが困難。



制度的なバリア

社会のルールや制度によって、障害のある人が能力以前の段階で機会の均等をうばわれているバリアのことを言います。

資格試験にあたり点字受験を求めたが、前例がないことを理由に断られた。

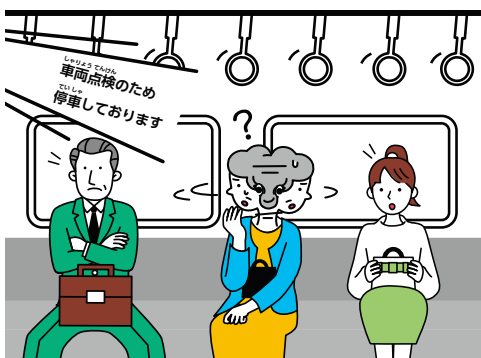


4つのバリア

文化・情報面でのバリア

情報の伝え方が不十分であるために、必要な情報が平等に得られないバリアのことを言います。

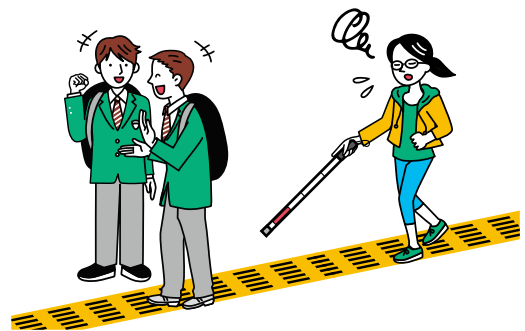
電車内のお知らせが音声アナウンスのみ。



意識上のバリア

誤った認識による心ない言葉、差別、無関心など、障害のある人を受け入れないバリアのことを言います。

点字ブロックの上に立ったり、自転車や物を置いたりする。



動画で学習

どこに「バリア」はあるのかな？



字幕・手話
つき

